

教育目標	
心豊かに主体的に生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年8月21日（水）	学校運営協議会理事
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが夢中になって遊びを進める中で、主体性や創造力、思考力の芽生えなど『学びに向かう力』を育てる。 ・思考力の芽生えを視点にしたエピソードを継続的にとり、教師の援助や環境構成を見直す。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修を継続的に行い「学びに向かう力」を探り、そのための教師の援助や環境構成の在り方を見直す。 ・保護者アンケート項目「お子さんは幼稚園生活を通して、心身がたくましくなってきたと思いますか」 <p>「お子さんは安心し、楽しんで幼稚園に通っていますか」の回答</p>

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年のエピソード研修を3回（うち1回は講師の指導）行い、学びに向かう力がどんな場面で見られたか研修した。 アンケート「幼稚園生活を通して、心身がたくましくなってきたと思うか」の結果は「そう思う」68%、「大体そう思う」32%、「安心し、楽しんで幼稚園に通っているか」の結果は「そう思う」84%、「大体そう思う」16%であった。 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 3つの資質・能力の「学びに向かう力」をエピソードの子どもの姿から探ったところ、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」も一緒に見られた。また、思考力の芽生えを引き出すための援助にはそれぞれの発達段階や遊びで違いはあるが、特に1学期はどの学年でも安定感・安心感を大事にして援助・環境構成が行われていて、これが、学びに向かう力の大きな土台となること共通理解した。 おおむねよい評価であるが、「たくましさ」については年々やや下がり気味である。「安心感」はもって園生活を楽しんでいることから、教員が安定感・安心感を大事にした保育をした結果が表れている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> エピソード研修は継続し、培われた安定感を土台に、今後遊びや生活を充実させていくための、教師の援助と環境構成の在り方を探る。また、思考力の芽生えを視点にしたエピソードを集めているが、科学的な遊びに偏っていたので、遊びのいろいろな場面でその姿を見出し、研修を進めたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> エピソード研修の回数とその成果 アンケート項目「お子さんは幼稚園生活を通して、心身がたくましくなってきたと思いますか」と「お子さんは安心し、楽しんで幼稚園に通っていますか」の、保護者と教職員の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 教職員の自己評価はどんな結果であったか、何が課題と考えているかを明らかにし、改善策を話し合うことが教育活動の質の向上につながると思う。 たくましさなど内面の成長は目に見えにくいので、昨年と比べてどこがどのように育ったか、個別に伝えていけばよい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

価	
---	--

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・幼小共通のキーワードで作成した『接続期教育課程』を実践し、見直し、策定する。
- ・合同研修(研究保育や研究授業の参観，研究協議)や出前授業，幼小交流についての定期的な話し合いの場をもち，思考力の芽生えの姿について，またその姿を育む教師の意図のある援助や環境構成などについて発信し，『学びに向かう力を小学校の学びに繋ぐ機会』となるようにする。
- ・「親子で絵本」（読書ノート）の活用

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・接続期教育課程を見直す研修を年2回行う。
- ・合同研修や幼小交流保育の実施回数や内容の充実度
- ・「親子で絵本」の100冊達成人数
- ・保護者アンケート項目「地域との連携（幼小交流）を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の回答

中間評価

各種指標結果

- ・接続期教育課程を見直す研修を1回行い，内容を検討した。
- ・合同研修は1回，幼小互いの保育，授業を参観し，事後の研修会をもった。幼小交流保育は1回，花の苗屋さんを行い，お店屋さんごっこで1年生と交流した。
- ・アンケート「地域との連携（幼小交流）を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の結果は「そう思う」72%，「大体そう思う」25%，「あまりそう思わない」3%であった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・接続期の教育課程の項目を再確認し，これから今年度の幼児の実態を踏まえて内容を書き換えていくことを教員で共通理解した。
- ・幼小合同研修では，幼稚園教員が小学校1年生の算数の授業を見て，「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」を見出し，小学校教員に具体的に伝え、理解を図ることができた。しかし，10の姿の育ちをどのように学習に生かすかということは伝えられていない。
- ・地域との連携が保育にいかされていると，ほとんどの保護者が思っていて，年々その割合が上がってきている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・接続期の教育課程を，書き換えて来年度のものを作成する。
- ・小学校教員への10の姿の発信を，指導要録を書くこと，また，入学後に小学校担任に直接伝える機会を持つという方法で行う。
- ・幼小交流の回数は増やさず，事後に保護者への分かりやすい発信を行い，理解を図る。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・接続期の教育課程を作成し，教員で再確認する研修を1回もつ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修や幼小交流保育の実施回数と内容の充実度 ・「親子で絵本」の１００冊達成人数 ・アンケート「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の保護者と教職員の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流は小学生にとって、年下の者に思いやりの気持ちをもつ機会となるので、続けていきたい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（３）預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・室内遊び、園庭での遊び、おやつ、読み聞かせ等の活動を異年齢ですること、年長者への憧れや年少者への思いやりの気持ちを育てる。 ・預かり保育の記録をもとに指導計画を見直し、時期、子どもの実態に即した保育を進める。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・利用率の推移・・・ここ２～３年の動向や曜日ごとの変動等も踏まえて ・保護者アンケート項目「預かり保育や業者弁当の取組はよいと思いますか」の回答

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の利用率はこれまでと大きく変わらない。曜日では水曜日の利用率が低く木曜日は高い。また、「ボールで遊ぼう」「つくってあそぼう」の日は参加率が高い（５０％以上）。 ・アンケート「預かり保育や業者弁当の取組はよいと思うか」の結果は、「そう思う」７６％、「大体そう思う」２０％、「あまりそう思わない」４％であった。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育は参加人数の多少によって子どもの遊び方が変わっている。参加者が多くても、子どもが安定感を持って、休息しながら遊べるようにすることが課題である。 ・預かり保育はほとんどの保護者が満足して利用している。業者弁当について回数やメニューを

	検討してほしいという意見がある。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数が多い時でも安定感を持って遊べるように、事前に利用状況を把握し、多い時はボランティアを活用する。 ・ 業者弁当は、園外保育との関係があり、現状のようにしていることを保護者に文書で伝える。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用状況の把握と、積極的なボランティアの活用 ・ 保護者アンケート項目「預かり保育や業者弁当の取組はよいと思いますか」の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月から保育料が無償化になるので、業者弁当の機会を増やしてほしい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

（４）子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 降園時の保育伝達時間には個々の様子を伝えているが、保護者が安心して対応できるよう、個に応じた一言アドバイスを心がける。 ・ ほっこり子育てひろばや家庭教育講座で、子育てについて悩みや工夫を出し合う機会を設ける。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケート項目「お子さんは安心して楽しんで幼稚園に通っていますか」の回答 ・ ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・ 学校運営協議会で、保護者代表より意見を聞く。

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート項目「お子さんは安心して楽しんで幼稚園に通っていますか」の結果は、「そう思う」84%、「大体そう思う」16%であった。 ・ ほっこり子育てひろばは4回実施（月1回）、参加者は延べ13人（参加率は93%）。
--

・学校運営協議会で、保護者代表に子育ての喜びや悩みを聞く。	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者が子どもは喜んで幼稚園に通っていると思っていることから、子育てに喜びを感じていると思われる。 ・ほっこり子育てひろばでは子どもをいつくしむというテーマで話し合いをしている。我が子の名前の由来を話したり、聞いたりして、子どもへの願い、赤ちゃんの時から成長を振り返り、楽しく懇談できている。仕事で参加できない保護者がいることが課題である。 ・学校運営協議会で、子どもの内面の成長が知りたいという意見が出た。幼稚園と家庭では様子が違うであろうし、内面は目に見えにくいので個別に知らせてほしいと言われた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは強制ではないが参加しやすいように、日程を早めに知らせたり、都合の良い時の会に参加できるように声をかける。 ・教員が子どもの心が成長したと思われる姿や事例を具体的に伝え、保護者にも子どもの見方を発信していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート項目「お子さんは安心して楽しんで幼稚園に通っていますか」「教職員が連携しながら、一人一人の子どもに温かくかかわっていると思いますか」の回答 ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・学校運営協議会で、保護者代表より意見を聞く。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の教職員から子どもの姿を聞くことがあり、みんなで見てもらっている感じを受けている。教職員で連携が図られているので、このまま続けてほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組
・「苗やさん」（お店屋さんごっこ）やお茶会体験、地域清掃など、地域の人々と子どもが関わる機会を

持つ。
・行事や保育参観に誘い掛け、意見をいただいたり、疑問に思われたことに応えたりして、幼稚園で大事にしていることをホームページで発信する。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の回答 ・運営協議会での意見

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられているか」の結果は「そうう」72%、「大体そう思う」25%であった。 ・今年の花の苗屋さんはたくさんの地域の方、伏見区長が来られ、活気があった。多くの方にこの姿を見ていただける貴重な機会となっている。この取組が教育課程のどこに位置付けられているか地域の方への説明が必要だったと思う。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携は教育課程を作成するうえで欠かせない経験になっている。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に位置付け、他学年もかかわったり、園体制で取り組めたりするようにする。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の回答 ・運営協議会での意見 ・地域行事についての園内研修や打ち合わせの実施
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は見守り隊や伏見区長にも声をかけ、いろいろな方が花の苗屋さんに来てくださった。幼稚園教育の発信になるので、毎年続け、地域にも声をかけていきたい。また、教育課程での位置づけを示したり、地域の方が子供らしさを感じられるような取り組み方を考えたらよいであろう。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

(6) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	教員が日々、笑顔で子どもと向き合えるように、見通しを持って仕事をし、個々の教員の生活の質を高める。
具体的な取組	・職員会議や打ち合わせをできるだけ木曜日に取り、他の日は学級の仕事や研修ができるようにする。 ・教頭、教員が休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。
(取組結果を検証する) 各種指標	・職員会議にかかる時間 ・教頭、教員の年休取得日数。

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の出張で木曜日に、定期的に会議や打ち合わせができなかった。 ・夏季休業期間中に教頭は、昨年より1日多く年休を取得した。
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・園長の出張が多く決められた曜日に会議を入れることが難しい。 ・教頭が1日多く年休が取れたのは、体調を崩したからであった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・会議の始めと終わりの時刻を決めて各自が時間を守ることで、話し合いはスムーズにできるようになった。レジメはあらかじめ作成し、検討事項だけ話し合えるようにする。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や打ち合わせの開始と終了時刻を守る。 ・職員会議のレジメは少なくとも2日前に配布する。 ・冬季休業中、教頭が年休を昨年より1日多く取得する。
	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園はいろいろな行事があり、それが選ばれる理由になっているので、なるべく現状維持でやってほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策